

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K01810

研究課題名（和文）女性の起業におけるやり甲斐、生き甲斐、働き甲斐と政策的支援のあり方に関する研究

研究課題名（英文）Female entrepreneurs' well-being and governmental support programs

研究代表者

鹿住 倫世（Kazumi, Tomoyo）

専修大学・商学部・教授

研究者番号：00349193

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：女性が起業する事業は、総じて男性が起業する事業より規模が小さく、雇用や税収の創出が少ない。もちろん、中には高度な技術を駆使して成長性の高いスタートアップを起業する者もいる。しかし、女性の起業を支援しても経済的発展にはつながらないとの見方から、政府による支援策は限定的である。そこで本研究では、女性にとっての起業の意義を経済的観点以外の部分、例えば遣り甲斐や生きがい、幸福感といった観点から分析した。

男女起業家へのアンケート調査の結果から、男性起業家より女性起業家のほうが、より高い幸福感を感じており、自分の仕事の人生における意義を高く評価し、また生活への満足度も高いことがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、日本の起業家が感じている自身の事業の価値や意義、生活の満足度、幸福度について、量的なデータを収集し、分析したという点にある。特に、女性起業家のほうが男性より、自身の事業の意義や人生における位置づけ、生活の満足度、幸福度を強く感じているということが明らかになった。

本研究の社会的意義は、特に調査時点がCOVID-19の感染拡大時期（2021年）であったことから、困難な社会経済環境にあっても、起業や事業経営が充実した生活の実現や幸福感の実感に役立つものであり、規模の拡大のみならず、well-beingの向上という観点での女性起業支援が必要であることがわかった。

研究成果の概要（英文）：Most of women entrepreneurs establish smaller business than that men have a new business of generally, and there are few employment and creation of the yield of taxes. Of course there is the person that we make full use of an extensive technique among women entrepreneurs, and a company does incremental high start-up. However, from a viewpoint that they do not lead to economical development even if support the company of women, the assistance measures by the government are restrictive.

Therefore, in this study, we analyzed the significance of the company for women from the part except the economical point of view, e.g., worth doing and a purpose of life, a point of view such as the well-being. From results of the quantitative survey to men and women entrepreneur, a female than a male entrepreneur felt higher well-being and appreciated the significance in the life of own job, and the satisfaction to life was found to be high, too.

研究分野：起業家活動

キーワード：女性起業家 起業家活動 ウェルビーイング ジェンダーギャップ 幸福度 生活満足度

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

日本においては、女性起業家の比率は約20%程度と、男性に比べて少ない状況にあった。女性の起業を増やすには、政策的支援が重要であるが、男性と比較して女性が起業する事業は規模が小さく、雇用の創出や税収の増加といった経済的インパクトがあまり期待できないことから、国レベルでの支援策はあまり実施されていなかった。

### 2. 研究の目的

本研究では、女性の起業における経済的成果以外の成果を明らかにすることにより、女性の起業を政策的に支援する意義を提示する。特に、近年、世界的女性起業家研究において注目されている、well-being や happiness といったキーワードに着目し、女性にとっての起業の意義を分析し、もって女性の起業支援政策のあり方に資することを目指す。

### 3. 研究の方法

新型コロナウイルス感染症の拡大により、対面でのインタビュー調査は困難であったため、男女起業家（創業から10年以内）に対する質問紙調査を実施し、分析することにした。

マクロミル社のモニターに対し、2021年5月から6月にかけてウェブ調査を実施した。回収された有効回答数は、男性618件、女性618件、合計1236件である。

### 4. 研究成果

#### 4-1 回収サンプルの特徴

回答者の性別は、男女50%ずつである。年齢分布は、表1のとおりであり、30歳代後半から50歳代が多くなっている。回答者が経営する事業の形態は、個人事業が最も多く80.5%を占めている。業種はサービス業が半数以上を占めている。

回答者の経営する事業の2020年の平均従業員数は3.90人、売上高の平均（2020年）は405百万円であった。

#### 4-2 自己効力感と幸福感

ここから、起業家活動における幸福度や充実感の男女差を見てみる。まず、起業家の心理的特徴の一つとして挙げられる「自己効力感 (Self-efficacy)」であるが、一般に女性起業家のほうが男性より低いことが知られている。本調査においても、先行研究から起業家的自己効力感を測定するいくつかの質問項目を設けている。「新たな事業機会を発見・識別する自信がある」、「新たな商品・サービスを開発・販売する自信がある」、「創造的に物事を考える自信がある」、「新たなアイデアを商品化する自信がある」といった質問に対して、「1 まったくそう思わない」から「7 とてもそう思う」まで、7点のリッカートスケールで回答してもらっている。起業家的な自己効力感に関する4つの質問すべてにおいて、男性の平均値が女性の平均値を上回っているが、平均値の差に統計的有意性があるものは、「新たな事業機会を発見・識別する自信がある」( $p<0.1\%$ )と「創造的に物事を考える自信がある」( $p<5\%$ )、「新たなアイデアを商品化する自信がある」( $p<5\%$ )であった。

次に、生活における幸福感や仕事の意義、家庭生活との両立について見てみる。生活や精神面の幸福度を尋ねた質問では、いずれも女性の回答の平均値が男性より高く、2つ質問とも平均値の差が統計的に有意 ( $p<0.1\%$ )。自分自身にとっての仕事の意義についても、3つの質問すべてにおいて女性の平均値が男性より高く、かつ統計的に有意 ( $p<0.1\%$ ) な差であった。仕事およびプライベートを含めた総体的な満足度 (0~100%で評価) も、女性の平均値が男性の平均値を上回り、統計的有意性 ( $p<0.1\%$ ) が見られた。

#### 4-3 財政的安定

本調査は2021年5月末から6月初旬に実施したが、この時期は新型コロナウイルス感染症のパンデミックが何度か発生し、経済が停滞していた時期である。起業家活動が停滞し、財政的に危機に直面していると、充実感や幸福度も低下することが考えられる。

そこでコロナ禍において、回答者自身が財政的に安定しているかを尋ねたところ、女性のほうが若干、安定していると感じている者が多いものの、男女の回答の平均値に統計的に有意な差はなかった。

#### 4-4 仕事とプライベートとの両立

起業家活動に限らず仕事を持つ女性は、家事や育児、介護といった家庭責任と仕事との両立に困難を感じていることが多い。女性が有職であっても、男性の家事、育児に費やす時間は、女性

よりかなり少ないのが実情である（総務省 2022）。

コロナ禍によって、対面での仕事が減り、オンラインビデオ会議システム等を活用して在宅で打ち合わせや営業活動、講演活動などを行うことが増えた。起業家活動においても、勤務者と同様、在宅業務が増加した。さらに、小学校や中学校で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生すると、自宅でのオンライン学習が行われた学校もあり、子供のいる家庭は自宅で仕事をしつつ、子供の面倒を見る必要があるとなった。

こうした状況にあって、起業家は仕事と家庭生活、私生活との両立、融合をどれだけ実現することができたのかを尋ねた。意外な結果であったが、回答の平均値は男女とも大きな差はなく、統計的にも有意な差は見られなかった。起業家活動は働く時間や場所に関する自由度が高く、男女起業家とも仕事と私生活を両立、あるいは融合させることができているといえる。

#### 4-5 考察

今回の調査は、業歴 10 年以内の会社経営者または自営業者を対象として、生活や仕事に対する幸福度や満足度を明らかにすることを目的としている。特に、女性起業家は起業家活動における経済的規模の拡大よりも、仕事から得られるやりがいや生きがい、働きがいを重視しているのではないかと疑問を出発点としている。仕事のやりがい等によって、幸福感や満足感が得られることが予見された。

調査の結果、女性起業家は男性起業家より、仕事の意義を強く感じており、幸福度や生活に対する満足度も男性起業家より高いことがわかった。一方、仕事と私生活との両立や融合については、男女の間で統計的な差は見られなかった。

実は、回答者の事業の年商（2020～2021 年）の平均値は、男性が約 7 億 2,900 万円であったのに対し、女性は 33 万円あまりと非常に大きな差があった。事業規模に大きな違いがあるにも関わらず、女性起業家のほうが男性起業家より高い幸福感や満足感、仕事の意義を感じているという事実から、女性は事業の成長や規模拡大といった経済的成果よりも、事業を行うことで感じるやりがいや生きがいを重視しているのではないかと考えられる。やりがいや生きがいを実感できることで、精神的な幸福感や生活に対する満足感を得ていくという関係が見えてくる。女性にとって起業家活動とは、こうした幸福感や充実感、自己実現をもたらしてくれる働き方なのである。

ただし、今回の調査のサンプルは、男女とも起業家のみである。もしかしたら、女性はどのような仕事をしていても、男性より幸福感を感じるのかもしれない。また、コロナ禍という特殊な状況にあって、平時の経営活動や業績を維持することが難しく、規模拡大よりも顧客とのつながりなど、別の方向に興味関心が集中していたのかもしれない。コロナ禍が収束した後は、同様の調査を起業家以外の者にも実施し、経年変化および起業家との比較分析を行いたいと思う。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 鹿住倫世	4. 巻 第54巻第8号
2. 論文標題 起業家活動における女性起業家の幸福度（研究ノート）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 専修大学商学研究所報	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿住倫世	4. 巻 69巻4号
2. 論文標題 「見えない」女性起業家に光を当てる	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 一橋ビジネスレビュー	6. 最初と最後の頁 6-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋德行	4. 巻 2021年7月号
2. 論文標題 創業支援における基本法改正の効果とその限界	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 商工金融	6. 最初と最後の頁 5-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kawai Norifumi, Kazumi Tomoyo	4. 巻 ahead-of-print
2. 論文標題 Female entrepreneurs' cognitive attributes and venture growth in Japan: the moderating role of perceived social legitimacy	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Gender and Entrepreneurship	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1108/IJGE-05-2020-0063	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kawai Norifumi, Xheneti Mirela, Kazumi Tomoyo	4. 巻 ahead-of-print
2. 論文標題 The effect of perceived legitimacy on new venture growth in Japan: a moderated mediation approach	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Small Business and Enterprise Development	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/JSBED-07-2019-0242	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 高橋徳行	4. 巻 第67巻 第1・2・3・4号
2. 論文標題 新しい創業支援策の誕生とその背景	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 武蔵大学論集	6. 最初と最後の頁 9-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計2件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 鹿住倫世
2. 発表標題 COVID-19の女性の企業家活動への影響
3. 学会等名 企業家研究フォーラム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河合憲史
2. 発表標題 新型コロナウイルスが日本女性起業家に及ぼした影響 - 2021年調査データに基づいて -
3. 学会等名 日本学術会議 産業構造・中小企業第118委員会 第301回会議(招待講演)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	高橋 德行  (Takahashi Noriyuki)  (60366838)	武蔵大学・経済学部・教授   (32677)	
研究 分担者	河合 憲史  (Kawai Norifumi)  (20867478)	上智大学・経済学部・准教授   (32621)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
イタリア	Universita degli Studi di Bergamo		